

助成事業実施報告書

団体名.....八王子セブクラブ

代表者・役職名 氏名.....代表 鈴木 功一

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

精神障がい者がスポーツ活動を通じて、社会復帰を目指す事業。

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

精神障がい者にとって地域社会に出ていく機会はまだまだ少なく、病院や施設だけに限らず、地域の中で気軽に参加する事が出来る場所を作るため任意団体として設立しました。「仲間作り」や「体力作り」を通して、社会復帰を目指しています。会員数は当事者が約20名、ボランティア約20名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

精神障がい者が競技として行なうスポーツ活動の場は、東京都においては全くなく、病院のデイケアや施設のプログラムの一環としてレクリエーションによる参加型活動でしかありません。全国障害者スポーツ大会のように結果が評価される大会を目指し、競技型のスポーツとして活動できる場を作るため、また他府県で活発に活動しているチームとの交流や講師を招いての技術指導により技術の向上を目指したいと当事者の声から発案されました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

競技スポーツとして、技術向上のため講師による技術指導を受けること。
他府県で障がい者スポーツを活発に行なっているチームとの交流の場を持ち、合同練習や練習試合、交流会などを通して、他府県チームの取り組みや練習方法、同じ目的を持つ者同士の悩みや相談の場として、今後のチーム活動にも生かせるような体験を持ち帰ります。また他府県へ遠征する事は、公共の交通機関を利用したり宿泊するなど、精神障がい者が生活上課題としている事が多くあり、このような障がいを克服するための訓練の場としても活用します。
一年間のプロジェクトをやり遂げることを体験し、自信を持つ事ができた時に、社会復帰への一歩となる事を期待します。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

社会復帰という最終目標に向かって、このプロジェクトを行なうことで、個々に明確な課題が浮かび、その課題に対する手段が分かってきます。競技スポーツを通し、目的を持つこと、課題を知ること、手段を考え実行する、という過程を意識して取り組んでいきます。
そして、毎年行われる関東ブロック大会に向けて、東京都選手団が結成され、東京都全域から選抜された選手約30名のうち、八王子セブクラブからは14名の選手が選ばれました。このプロジェクトにより数多くの大会を経験が出来たことが、選抜された裏付けとなったと思います。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

この度のプロジェクトにより、年間を通して競技スポーツに取り組み、技術指導を受け、多くの大会へ参加できたことで、数名の当事者は東京都代表選手として活躍するまでになりました。選ばれた選手は自信と責任感を持ち、それ以外の選手も東京都選抜選手という新たな目標に向かって、さらなる意欲向上、活動への積極的な参加が増えるという傾向がみられ、同時に就労意欲が高まり、社会復帰施設での活動も確実に増えていきました。

就労や就学で卒業していく当事者がいる一方、又新たな当事者が参加するようになり、この事業は毎年繰り返し行っていく意味があると感じています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

